

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	建設局
----	-----

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	生活基盤の充実

担当局 / 総務担当課名	建設局	総務課
連絡先	5 8 2 - 2 2 5 2	

21年度計画

-1-(3)-

施策名	快適で良質な生活環境をつくる下水道の整備
-----	----------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民に、より快適で質の高い暮らしを提供するため、分流式下水道区域の拡大や雨水滞水池の設置など、良好な水環境の創造に向け、下水道の整備を進めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	生活基盤の充実

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
		年度	平成21年度		19.1 %	年度	平成26年度
合流改善率	雨天時に合流式下水道から放流される未処理下水を削減するために、雨水管整備による分流化及び雨水滞水池の設置により、合流改善を計画的に進めます。	現状値	19.1%	実績	19.1 %	目標値	35.0%
				達成度	100.0 %		
		年度		計画		年度	
		現状値		実績		目標値	
				達成度	%		
		年度		計画		年度	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	3,685,154 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	千円	102,075 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	合流式下水道の改善が計画的に進んだことにより、安全で安心な市民生活の確保と良好な水環境の形成の実現に貢献していると考えます。 浸水対策や改築更新と併せて一体的に取り組むことなどにより事業の効率性を高めていると考えられます。
今後の局施策の方向性	下水道法施行令で定められた期限までに合流式下水道の改善に取り組み、良好な水環境の創造に向け、下水道の整備を進めます。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価
 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 快適で良質な生活環境をつくる下水道の整備

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
合流式下水道改善事業			3,685,154 千円	102,075 千円	裁量的経費			ウ
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
施策全体の事業費のうち一般財源	3,685,154 千円	102,075 千円

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
A:大変良い状況にある
B:概ね良い状況にある
C:概ね良い状況とまでは言えない
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	建設局	計画課
連絡先	582-2480	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	生活基盤の充実
	主要施策	快適で良質な生活環境をつくる下水道の整備

関連計画	
事業期間	H17~
経費区分	裁量的経費

-1-(3)-

事業名	合流式下水道改善事業
-----	------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	合流式下水道で整備された地区は、大雨時に雨水で希釈された未処理下水の一部が川や海に流れでることがあるため、分流式下水道区域の拡大や雨水滞水池の設置など、放流先の汚濁負荷を分流式下水道並に軽減し、良好な水環境をつくります。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	快適で良質な生活環境をつくる下水道の整備	成果	合流改善率

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	雨水管整備による分流化、雨水滞水池の設置 合流改善率19.1%	雨水管整備による分流化、雨水滞水池の設置 合流改善率21.7%	雨水管整備による分流化、雨水滞水池の設置 合流改善率26.1%	雨水管整備による分流化、雨水滞水池の設置 合流改善率30.7%	雨水管整備による分流化、雨水滞水池の設置 合流改善率31.8%				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		合流改善率						計画	19%	年度	平成26年度
		合流式下水道の改善を進めるには、雨水管整備による分流化及び雨水滞水池の設置を進める必要があります。						実績	19%	内容	35%
								達成度	100.0%		
						計画		年度			
						実績		内容			
						達成度	%				
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	3,685,154 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	千円	102,075 千円		
単年度計画							計画課...計画策定 設計課...設計・ 工事発注 東西整備事務所... 工事監督				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は、板櫃・槻田川流域の分流化整備等を行い計画整備率を達成できました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	整備を推進することにより、着実に合流式下水道の改善が進み、公共用水域の汚濁負荷削減が図られます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	浸水対策や改築更新と併せ一体的に取り組む等、効率性を高めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	下水道法施工令で定められた期限(平成35年度)までに改善率100%達成を見据え、平成26年度末時点で改善率35%を達成するよう計画的に実施しています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか。市の関与をなくすることはできないのか。		4	公共下水道は、自治体が管理しなければならない重要なインフラであり、実施主体は市以外ありません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	下水道法施行令に定められた期限までに、分流化及び雨水滞水池の設置を進め工事を完了させることで、公共用水域へ放流される汚濁負荷量を分流式下水道並にします。そのため、着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。